

勿凝学問 75

普通は、度を過ぎてしまえば却ってすべてを喪うものなんだけど・・・

——『日経新聞』4月10日の社説「年金一元化で分かった官のお手盛り」を読んで——

2007年4月12日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

2007年度の講義がはじまった。4ヶ月ぶりくらいの講義なので、授業の仕方をすっかりわすれていた。そこで講義の冒頭、先日みつけたすてきな文章があったので、それを紹介することから、本年度ははじまった。

マーシャルの講義に出席した人たちは口々に、その内容がいかに整理されていなかったかを語っている。彼は講義の内容を教室に出向く途中で考え、シラバスも素っ気ない箇条書き程度だったという。

このようなやり方によってこそ、マーシャルは「情報を伝えたのではなく、生徒の理解力を目覚め」させることに成功したのだという。この点に関してはマーシャル自信も、自分のクラスからものを考える教え子が育っていったのは、よく整理された情報を伝えるような講義をしなかったからだと言っている。

またマーシャルの方法は、「自分の仕事を声に出して考えるというやり方だった」ために、「学生は特定のテーマについての知識だけではなく、経済理論はどうやって作られていくかを学んだ。まるで自分もその作業に参加しているような気分になって」という。

林敏彦「マーシャル 経済学原理（やさしい経済学）」

『日本経済新聞』2007年4月4日朝刊 25面

なんだ、僕といっしょじゃないかい・・・などとは言わない。マーシャルは偉大なので——。でも、ゼミの学部生さんに経済学や計量などを教えてもらっている僕のところの大学院生には、（3、4年生にはこっそりと）「君たちがしっかりと準備することは大切なことではあるが、あんまりきれいな授業をしちゃいけないよ」とアドバイスを出したりもしている。理由はご想像にお任せするが、まあ、マーシャルと同じようなことを考えてのことさ・・・などとも言わないでおく。

さてさて昨日、教室に出向く途中で考えたことを、講義で話していた最中、「まさか新聞をとっていない者はいないよね。まあ、念のために、とっていない人には手をあげてもら

おうか」と言うと、お一つ、結構いてしまった。すると授業を終えた後、ひとりの学生さんから、「新聞はなにがいいでしょうか？」とかわいらしい質問をされてしまった。「読み方次第で、どこの新聞でも役に立つもんだよ」と答えて帰ってきたんだけど、ちょいとぶっきらぼうだったかなと思うので、今日はひとつ、新聞の読み方を解説しようと思う。題材は、日経新聞——この新聞、ちょっとおもしろいよ。新聞の顔とも言える社説に、嘘八百のトンデモナイ記事を書けるところでもある。

これまでも数年にわたって、日経新聞の社会保障記事を、年金にしろ、医療にしろ、社会保障財政問題にしろ、批判してきた。こんな感じで・・・。

こうした学説史的な概観から帰納してみると、日本の公的年金論議が他国と比べて奇妙かつ自虐的な形になってしまったのは、日本経済新聞社、阪大財政学グループ、一橋年金研究グループの精力的かつ秀でた活躍に原因があったのではないかという作業仮説を立てることができそうなのである

LRL(Labor Research Library)(2006)「[公的年金における世代間格差をどう考えるか](#)
[——世代間格差論議の学説史的考察](#)」 No.11, p.5.

III巻「医療年金問題の考え方」 p.180.

ここ数年の日経の前の方のページを飾る年金記事のおそらくそのほとんどを大林尚氏という記者が書いているのだらうけど、彼は新聞記者でありながら取材をすることもなく事実を見ないままに社是に合わせた記事を書く癖があるようなのである。彼の文章を見てるとかなり頻繁にそうした特徴がうかがえる。おそらく大林氏が書かれたであろう、水曜日の講義の中で紹介をした火曜日4月10日の社説「年金一元化で分かった官のお手盛り」も、そうであった。しばしこの記事をながめてみよう。

まず一段落目

民間の会社員などが入る厚生年金と、国・地方の公務員や私立学校の教職員が入る共済年金を一元化するための法案を政府が今週中に国会に出す。一般に、年金の保険料負担や給付水準は厚生年金より共済年金の方が恵まれている。この官民格差を解消することが一元化の目的だ。

「一般に、年金の保険料負担や給付水準は厚生年金より共済年金の方が恵まれている」？

出だしからわたくしには意味が分からない。

「厚生年金より共済年金の方が恵まれている」ってのは、何を意味するのか？

保険料率が低いつてこと？

職域部分があるってこと？

よく分からないねえ。たしかに、共済年金には、厚生年金にない遺族年金の転給制度などがあるが（これは、今回の改革で厚生年金に揃えられる）、この話は、社説の内容とはまったく関係なさそうである。

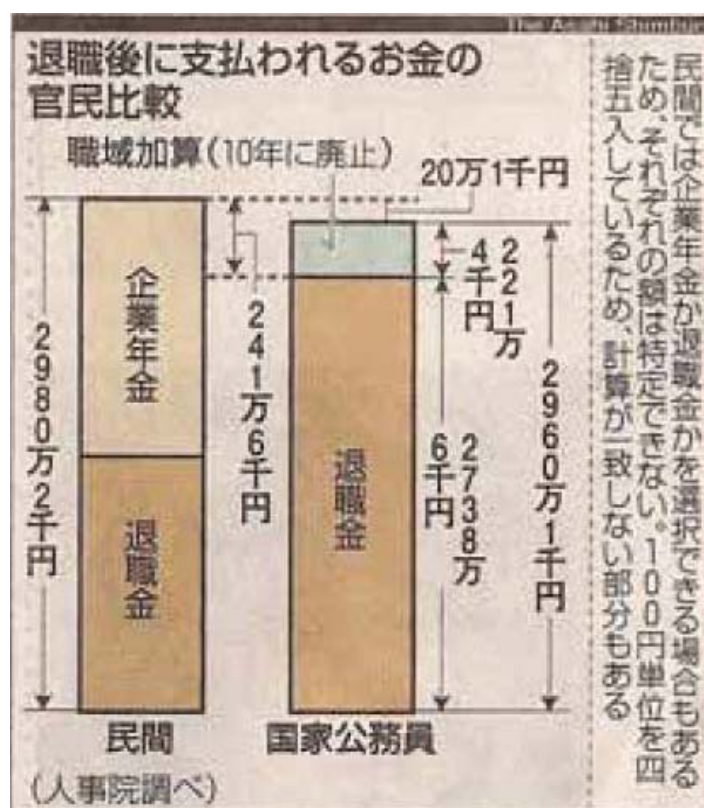
ところで、厚生年金と共済年金は、同じ年金制度の仕組みのもとに運営されている。それでも、被用者年金一元化は望ましいというのがわたくしの論である。そのあたりは、「勿凝学問 43 [首相の失言は優しく忘れてあげましょうよ、それが大人というものでしょう](#)——厚生・共済年金一元化と追加費用」を読んでほしい。

共済年金には3階に職域部分が加算されているにはいる。しかしこれは、厚生年金側の3階部分である企業年金の存在を念頭に置けば、公務員の方が恵まれているなどという話をはじめからない。この点、共済年金の職域加算部分は労使折半の年金であり、企業年金は、退職金の年金化という歴史的経緯をたどって普及してきたものであるために、そのほとんどが労働者負担分はなく使用者負担からなる年金である。そして、昨年11月に、人事院が（勇気をもって？）報告したところによれば、次の図のように、退職後に受け取る総額は、民間よりも国家公務員の方が低いというものであった¹。

1 後日談

プロの方々にはご承知のとおり、このときの調査は、公務員については事業主負担たる公費負担分だけでカウントした——これは正しい調査方法なのである——ために民間の方が高いという結果が出た。すると、事実がそうであっては公務員バッシングに振り上げた腕を降ろすことの出来ない自民幹事長はじめ与党関係者が、人事院報告に激怒した。そこで、職域加算部分の労使折半の保険料の本人負担分も加えて調査し直すように人事院に指示を出したら、思惑通りに公務員の方が高かったという結果が出て、与党関係者はホッと溜飲をおろしたという経緯がある。この追加調査は、最初に読売新聞があつかったと記憶している〔「年金、公務員の方が多額 上乗せ部分、民間より143万円／人事院追加調査」『読売新聞』2007年1月7日朝刊2面〕。

さて、老後の生活費になるのは退職金と年金なので、退職金と年金の合計について、事業主負担たる企業負担と事業主負担たる公費負担が均衡していること、これが官民の公平性の考え方の基本であろうというのは当たり前のことであり、この基本に基づいて、人事院は最初の調査報告書を出していた。これにプラスアルファとして、民間でも公務員でも、本人が拠出能力と希望に応じて上乗せ分の保険料の本人負担分を負担すればよいのである。こういう常識を無視してでも、公務員の方が得をしているという結果をなんとしてでもでっちあげる、これが今の政治ってもの——茶番すぎ、ちょっと専門的すぎるので、これまで勿凝学問では取り上げなかったのだけど、わたくしの講義を履修する君たちは、この程度の社会のカラクリについては、理解できるようにしておこうかね。



『朝日新聞』2006年11月17日1面

勿凝学問 53 [国家公務員と新聞記者の仕事、どっちの方が高い報酬で報われるべきなんだろうか？——人事院「民間企業の退職給付等の調査結果」はおもしろい](#)

では、次の段落に行ってみよう。

だが法案には、それぞれの年金積立金の扱いについて、共済側が有利になるような仕組みが含まれていることが参院事務局の調べで判明した。国会での法案審議では格差解消という本来の趣旨に基づき、厚生年金の加入者が不利益を被らないよう法案修正も検討すべきではないか。

「それぞれの年金積立金の扱いについて、共済側が有利になるような仕組みが含まれていることが参院事務局の調べで判明した」らしいので、わたくしは早速知人に、「そういう調査結果が出たらしいんだけど、持っていない？ 持っていたら見せてくれないかな」とメールを出した。すると直後に、「大部ですのでコピーの上、バイク便でお送りします」とのクイック・レスが届く。その後、驚くほどすぐに自宅まで送られてきたコピーをみて、ビックリ！

なんのことはない、参議院厚生労働委員会が調査を委託したニッセイ基礎研から、3月はじめにわたくしのところに送られてきていた調査報告書と同じものではないかい。わたくし

しはこの調査報告書「被用者年金各制度の比較分析と一元化に向けた課題に関する調査」に収められている[有識者ヒアリング調査](#)でヒアリングを受けていたので、報告書が出来たときに送られてきていた。でっ、送られてきたときに、一通りながめていたのだけど、「**それぞれの年金積立金の扱いについて、共済側が有利になるような仕組みが含まれている**」など、この報告書の中には、どこにも書かれていなかったはずだ——ゾ。

そこで、日経がこの問題を1面トップで報じた4月7日土曜日の記事「厚生年金の一元化 共済積立金 統合は半分 残り24兆円 公務員側に配分」をじっくりとながめてみると、どうも、調査報告書の次の表の読み違いが、ことの発端であるようなのである。

試算パターン	試算の内容	2100年度末積立金			
		名目額 (兆円)	積立 度合	アとの差(名 目額・兆円)	
ア 一元化反映前	一元化に伴う変更を反映する前の財政予測を合算	139.3	1.0		
イ 二 元 化 に 伴 う 変 更 要 素	(a)積立金の仕分け	-287.2	-1.8	-426.6	
	(b)職域過去分の分離	431.8	3.0	+292.5	
	(積立金の仕分け +職域過去分分離)	上記(a)と(b)を同時に反映	5.3	0.1	-134.1
	(c)保険料率の統一	保険料引き上げ計画の変更のみを反映	54.5	0.5	-84.9
	(d)職域将来分の廃止	職域部分の将来分の廃止のみを反映	466.0	-3.3	+326.7
	(保険料率変更 +職域将来分廃止)	上記(c)と(d)を同時に反映	381.2	2.7	+241.8
(e)追加費用の削減	追加費用の削減のみを反映	139.3	1.0	0.0	
ウ 一元化(5項目)反映後	上記(a)~(e)を同時に反映	247.1	1.8	+107.8	

読み違いは、3日の東京新聞朝刊に載った共同通信配信記事「134兆円を民が負担 共済積立金の上乘せ充当で年金一元化で参院試算」が始まりだったようである。この記事が出ると、各紙のデスクは、社会保障担当記者を呼びつけて、「なぜ、共同に抜かれたんだ！」と叱つたらしいが、社会保障の担当記者たちは、「あの記事は間違ってますよ。まいったなあ、もう。」と説明して、釈然としないデスクたちをなだめて事なきを得る。だいたいもって、上の表を作った当のニッセイ基礎研が、共同通信配信記事をみて、そんなつもりで作ったんじゃない(涙)と嘆くにいたっていた。ところが、官僚バッシングのネタはないかと日々神経を研ぎ澄ましている日経だけは違い、「134兆円を民が負担」という記事に、それ来たと乗った。

ややこしい話はなしにしておくが、この表、素直に読めば、なるほど、被用者年金一元化によって、これまでの共済年金を統合した新しい厚生年金の積立度合いが0.8年分、積立

金にして 107.8 兆円増えることが分かる。被用者年金一元化によって、従来の厚生年金サイドは、保険料の引上げスケジュールや積立金の取り崩しスケジュールにはなんの変化も生じない。変化が起こるのは共済サイドである。共済では、これまでは 3 階部分(職域部分)を含んでいた保険料が、職域部分の廃止を受けて、2010 年以降は 1・2 階部分だけの保険料に意味合いが変わる。しかも、保険料率は、厚生年金に合わせた 18.3%まで引き上げられることになる。各年金制度から 1 階部分の基礎年金に対しては、被保険者 1 人当たりが定額である「人头割方式」で拠出されている。共済年金グループは、平均的な所得水準が厚生年金グループよりも相対的に高いので、この定額の 1 階部分の拠出金を厚生年金より低い保険料率で賄うことができたから、1・2 階部分に必要な保険料率だけで比べると、共済年金は厚生年金よりも低い保険料率で賄える見通しだった。しかし、一元化に伴って厚生年金と同じ 18.3%まで引き上げられるから、その結果、一元化後の(新)厚生年金は、一元化前よりも余裕が出ることになる(ごめん、学生さんたちには分からないだろうけどガンしてくれ。来週の講義で説明します)。

さてさて、どこをどう読めば、厚生年金にとって不利になる話があるのだろうか。次をみてみよう。

厚生、共済年金とも将来の保険料負担の過度な上昇を緩和することなどを目的に、加入者の保険料の一部を積立金として保有している。

共済年金を廃止して厚生年金に統合する時期は 2010 年度。09 年度末の積立金残高を推計すると厚生年金が 156 兆円、共済年金は国家公務員、地方公務員、私学教職員の 3 つ合計で 52 兆円となる。

その時の積立金残高で何年分の年金給付を賄えるかを示す積立比率は、厚生年金が 5.25 年。これに対して三共済合計では 9.83 年となる。共済側の積み立て状況が厚いのは公務員の方が平均賃金が高く、そのぶん保険料収入も多いからだ。

この文章は最後の一文を除けば問題はないのだが、最後の一文は、論者の思いこみというか、事実を曲げてでも官を叩けば誉めてもらえるという社風ゆえか、見なければならぬ事実を意識的にか無意識のうちにか目をつむって見ていない。

共済年金の積立状況が厚生年金よりも厚いのは、かつて、前者の方が後者よりも積立方式の考え方にこだわった保険料率を設定していた要因が大きい——要するに、かつて、共済年金の方が厚生年金よりも保険料率の引上げを早く行っていたからである。下記の事情ゆえに、当方、私学共済の事情を、少しばかり知っている。

それに彼〔僕〕は、2002 年度に私立大学連盟(私大連)に設立されていた「年金問題検討委員会」のメンバーでもあったらしい。私学共済でない慶應は、私大連がかかえる年金問題とは無縁のはずなのだが、私大連の会長が慶應大学の塾長であるらしく、

かわいそうに一年間、私学共済の年金問題を検討する会議に顔をださせられていたという。だから、私学共済にも、ちょっと詳しいという話もあったりもする。

勿凝学問 43 首相の失言は優しく忘れてあげましょうよ、それが大人というものでしょう

Ⅲ巻『医療年金問題の考え方』 p.572.

彼ら共済グループが、厚生年金に統合されることを嫌がる際の一番もつもらしい理由は、「われわれは、厚生年金よりも平準保険料率の考え方にのっとりて保険料率を早めに引き上げて、積立金を多く蓄えてきた。これは自助努力の結果である」というものである。これは、仰るとおりであるとしか言いようのない側面であるように思える。こういう事情を抜きにして、「共済側の積み立て状況が厚いのは公務員の方が平均賃金が高く、そのぶん保険料収入も多いからだ」とは？ それにそもそも、公務員の平均賃金が高くなれば保険料収入も多くなり積立金が厚くなるものなのか？ 賃金が高ければ給付額も高くなるから、保険料収入が多くなっても積立金が厚くなることはあるまいヨ。

次に行ってみようか。

法案によると、共済年金は一元化のときに積立金の積立比率を厚生年金にそろえたうえで持ち寄る。つまり、5.25年分の28兆円を厚生年金の積立金と統合・合算して、残る24兆円は共済側が独自に持ち続けるのを認めている。

24兆円の使い道は3つある。(1)「職域加算」と呼ばれる共済独自の上乗せ年金のうち、既に給付することが確定している分に充てる(2)公務員など旧共済加入者の保険料の上昇抑制に使う(3)職域加算の廃止後に新設する旧共済加入者のための上乗せ年金の給付原資にする——だ。

特に問題が大きいのは(3)である。

先にも述べたように、共済の積立度合いが高いのは、彼らの自助努力によるところが大きい。となれば、「共済年金は一元化のときに積立金の積立比率を厚生年金にそろえたうえで持ち寄る」というのは、一つの考え方として、かなり妥当なものであるように思える。そうすると、「5.25年分の28兆円を厚生年金の積立金と統合・合算して、残る24兆円は共済側が独自に持ち続けるのを認め」ることは、当然の理として導き出されてくることになる。そこでその使途の問題となるのであるが、この社説が(1)、(2)を問題視していないのは妥当だと思う。だけど、なぜに、(3)は問題が大きいのだろうか。次をみてみよう。

新たな上乗せ年金を将来つくることは政府・与党が合意しているが、制度設計は白紙の状態だ。にもかかわらず、共済側がその原資を今から確保しようとするのは公正でない。新たな上乗せ年金は、将来受け取る分を現役時に自分で積み立てる確

定拠出年金のように、積立金が原則不要な仕組みも選択肢となるからだ。

もう、この文章になると、この社説の論者が、日経ほどの大新聞の年金担当者であることを世界の七不思議のひとつに数えあげていいのではないかと思えてきたりする。たしかに新たな上乘せ年金の制度設計は白紙の状態である。しかし、新たな上乘せ年金の原資をまったく残さない状態にするということがいったい何を意味するのか、この論者は、考えたことがあるのだろうか。「**新たな上乘せ年金は、将来受け取る分を現役時に自分で積み立てる確定拠出年金のように、積立金が原則不要な仕組みも選択肢となるからだ**」という文章については、もう、なにかを話す気も起こらないほどにナンセンスな文章である。

今国会は審議日程が窮屈なため、一元化法案の実質審議は夏の参院選後になる見通しだが、今から法案の問題点を的確につかみ、お手盛りとみられるような官の優遇を温存させないことが立法府の責務である。

さてさて、明日閣議決定されるはずの一元化法案のどこが「お手盛り」なのか。どこに「官の優遇」が温存されているのか。今回の被用者一元化にそういう側面があるというのなら、もう一回、社説を書いてみたらどうかなあ、日経は。4月10日の社説では、まったく説明されていないと思うよ。社説「年金一元化で分かった官のお手盛り」の中で、「お手盛り」「官の優遇」が論証されたと考えるのなら、どうかしている。

日経の社説が、参議院選前に、官を叩きに叩き、政府・与党の参議院選戦略である三本の矢「社会保険庁改革、教育改革、そして公務員改革」をアシストすることにあることは、紙面を毎日ながめていればおおよそ分かる。そして、おそらくこの社説を書いたであろう大林氏は、日経記者であったOBの現幹事長の御ためなのか、被用者年金一元化問題を使った官僚バッシングを、論も筋も投げ打って展開してくれたわけである。でも、普通の世の中ってのは、ここまで度を過ぎてしまえば却ってすべてを喪うものなんだけど……。この社説の論者はどうなるのだろうか——日経では、おそらく大丈夫なのだろう。

そしてこの件のおもしろいのは、いま、被用者年金一元化の足を引っ張るってことは、日経記者の大先輩である与党幹事長の足を引っ張ることになるんじゃないかなということ（笑）。いやはや、政治の世界、一書生には分からないことばかりで、なにかきつと裏があるのだろうとは思う。だから、今後の展開でも傍観しながら、ここは大人しくお茶でもすすっておくことにしておこうかね。



とまあ、新聞なんてものは読み次第で、どんな新聞でも役に立つものさ。
ということで、日経はどうっ？ 勉強になるよ。。 > 学生諸君

まあ、もらえる洗剤の量で決めるってのもあるかもな。

僕としては、さすがにそろそろ、購読契約の景品は粉末ではなく液体洗剤にしてほしいんだけど、どの新聞社も粉末ばかり。あれって、なぜなんだろうね。

参考文献

大林尚氏の名前が登場する過去の雑文

勿凝学問 57 [医療関係者への日経新聞のすすめ——みなさんの問題意識と経済界ご意向とのギャップを知る手がかり？](#), p. 4.

勿凝学問 38 [もうひとつの終戦記念日 2005 年 8 月 9 日 — 映画〈黒部の太陽〉と民主党の〈年金改革案〉というものをみてみたい](#), p. 5.